

## 言心先生の中国便り

## 教育の利と害

数年前、中国初のノーベル文学賞を受賞した莫言さんは、文化大革命の時期に家庭の事情で小学校を卒業出さず、家で親族が持つていた中国文学作品を読み、独学で作文の方法を身に付けて、後に兵隊に入隊した。

彼は趣味で幾つかの文章を書き、投稿した。これによって、彼は推薦され大学に入学し、そこで文学の理論を学んだ。

莫氏の娘が中学生の頃、彼女は度々学校の国語の問題について作家のお父さんに聞いてきた。その時、初めて莫氏は中国の中学校の国語テキストを読み、ある違和感を覚えた。

まず、内容は政治宣伝の色が濃過ぎるということである。次に、偽りの内容が非

常に多く、学生の教材という目的に使用するには、全く適格ではないということである。

莫氏は、学生が学校でそのような、いい加減な教材を勉強して社会に出たら、必ず矛盾を感じて頭がおかしくなると心配している。

もちろん、莫氏の心配は行き過ぎではない。現代の中国の社会道徳の崩壊の原因の一つは、教育の失敗であると考えられる。

前世紀に共産党が中国の天下を取った後、中国における教育の目的は、党に絶対的に服従する道具を製造することになった。

改革開放後、教育の方針は少し変わってきた。今の方針は、簡単に言えば、「高級ロボット」を製造することである。教育の役割は生徒に様々な規制プログラムを入力することである。当然、ロボットがいくら高級であっても、物事を自発的に思惟し

分析することが出来なくなってしまう。これは、「メイ・ド・イン・チャイナ」が他国製品のコピーの代名詞になってしまっている重要な原因だと思

思う。

莫氏は、もし自分が中学校を卒業していたらノーベル文学賞とは絶対に無縁だったであろうと断言した。

莫言氏

もし私が中学校を卒業していたら、ノーベル文学賞とは無縁だったであろう！

現在の中国の教育は、自発的に物事が考えられない「高級ロボット」をつくることなのか…



陶陶酒本舗の  
栄養補助食品

通信販売

携帯電話、PHSからもOK!



0120-039-064

<電話料無料>お問い合わせ/午前9時~午後5時 月~金(祝・祭日等除く)・お申し込み/午前9時~午後9時 年中無休

オンラインショップ

